



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2015/03/09(月)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 165

北海道の選手たちの成長を願って

～北海道中学校バスケットボール新人大会を振り返り～

北海道ジュニアバスケットボール連盟
強化委員長 北村 剛

年末の南・北大大会と年始の決戦大会を振り返りつつ、北海道の中学生が全国でも活躍するために何が必要かを考えてみました。

まずは、毎年のことではあるが、年末年始を経て大会に臨むことについては、体調面からも難しい状況ではあるが、オールジャパン（全日本総合選手権）が正月明けに開催されていることや、全国各地でも交流試合が行われていることから考えて、身体を動かすことのできる環境を作ってもいいのではないかと考えます。

そのような中で、決戦大会に出場したチームのスタッフについては、年末年始の施設の管理の面で使用が制限される中、様々な工夫をしながら練習する環境をつくった上で大会に臨んでいることから、好きなバスケットボールを一年中楽しむことができる環境を作っている方々に対し、心より敬意を表します。

さて、今大会の最終日における戦い方をまとめてみたいと思います。

<女子>

- ・指導者の巧みな戦術（タイムアウトや選手起用）が多く見られ、選手たちの良さを最大限に引き出そうとする姿が見られたこと。
- ・日々の徹底した練習の中で培った技術により、選手たちが自信を持ってプレーしていたこと。
- ・自分のチーム内の役割と自分の技量を理解していること。

<男子>

- ・ボールハンドリングやシュート技術の高さ
- ・スピードとパワーを利用したオフェンス
- ・トランジションの速さから得点を奪うスタイルが多く見られたこと。

このような中でも、上位に入賞したチームの特徴をまとめると、次のような姿を見ることができました。

<女子>

- ・正確な状況判断の中でのパス・シュートが多く、ミスが少ない。
- ・チームのスタイルを選手たちが理解し、実践している。

<男子>

- ・ 堅い守備から速い展開でシュートを決めるスタイルが確立されている。
- ・ 巧みな1対1からシュートまでの技術の高さ

年々、中学生のレベルが向上していることを見ることができる大会ではありますが、今大会における課題をまとめてみました。

- ① 組織的なDEFによりOFFでトラブルが起きそうなとき、次のようなファンダメンタルが求められる。
 - ・ 視野の確保
 - ・ ドリブルの付き方 (DEFを見た上で)
 - ・ パスの仕方 (どんなパスをするべきか)
- ② 粘り強いDEFを心がける。
 - ・ 脚でしっかりとOFFを守る
 - ・ すぐに倒れないDEF
 - ・ 日々体幹を鍛えること
- ③ 悪い位置でボールを保持することにより、DEFにボールを奪われることが多い。
⇒DEFの位置を踏まえたボールの位置と移動の技術が必要である。
- ④ OFF技術の一層のレベルアップを図ること。
⇒ボールミートを基本とした“もらい方”の徹底
⇒足のつま先(フリーフット)をゴールに向ける。
- ⑤ 無駄足をなくすこと。
⇒次のプレーを予測することでシンプルかつ効率良く動く。
- ⑥ コミュニケーション(=声)が足りないことからミスにつながる
⇒DEF面での連携不足による失点
⇒OFF面でのパス等のタイミングを合わせるが出来ない。

今大会に限らず、今までにも見られた課題ではありますが、私たち道ジュニア連盟の横(=指導者)のつながりから、これらの課題に対して共通認識を持つべきであると考えます。

近年、様々な事情から指導者講習会を企画することができない状況ではありますが、私たちの最大の事業であります「北海道選抜」の取り組みでは、毎年、選抜に関わるスタッフが真摯にバスケットボールと向き合い、全国各地や北海道内で行われている講習会や強化合宿に参加して情報を収集し、合宿の際に交流を図ります。

また、地区や自チームでの実践を交流し合い、指導者としての力量を高めるよう努力しています。

このように、横(=指導者)のつながりから、私たちは「北海道の選手たちが全国で活躍するためには」を追及しています。

更には、縦(=違うカテゴリー)とのつながりも大切にすべきと考えます。現在は普及委員会で行っております「エンデバー」に関わる事業に関しても、トップエンデバーで学んだ事柄を北海道内の各地区に伝達することはもちろんのこと、ミニバスや高校生対象のエンデバー講習会に参加したり、大会の視察を通じて、「中学生において何が必要か」を考えるきっかけとしております。

私たち強化委員会は、このような活動を通じて「オール北海道」の取り組みと位置づけ、強い北海道を目指しています。

チームづくりのみならず、人としても成長することを求め、毎年、北海道内各地の選手たちを育てています。

ここ数年前までは男子チームが全国の上位に位置する活躍を見せてくれましたが、近年では女子の強化が実り、一昨年はベスト4、昨年は準優勝という結果を残すことが出来ました。

この結果に満足することなく、私たちは北海道の選手たちのために、より一層様々なことを学び、指導技量を高めていきたいと思えます。